

堺

かなおかじんじゃ 金岡神社

日本最古の官道（今の国道）と呼ばれる竹内街道を西に面する金岡神社は仁和年間（885～889年）の創建と伝えられる。金岡神社の名称は一般的には金属にまつわる神様を祀る神社をさすが、一条天皇の御代（986年頃）勅命により画聖巨勢金岡卿を合祀することとなり現在の金岡神社と称することとなった。巨勢金岡とは平安時代前期の宮廷画家であり大和絵の様式を確立させた功労者とされ現在の日本画にも大きく影響を及ぼしている。江戸時代後期に滝沢馬琴によって書かれた「南総里見八犬伝」では巨勢金岡の描いた「目なしの虎」に眼を入れるとその虎が暴れまわり主人公の一人である「親兵衛」が退治をするシーンが描かれるほどで当時も有名であったことが伺われる。金岡神社は日本画の大祖である



楠の大木に囲まれた本殿



楠ノ木白竜天神



氏子 11 町による大太鼓の様子

所在地：堺市北区金岡町 2866 番地
最寄駅：地下鉄御堂筋線新金岡駅より南東徒歩 20 分
見学：境内は自由

画聖「巨勢金岡卿」を祀る唯一の神社である。かつては堀に囲まれた境内であったが、現在はその一部しか残されていない。楠の大木に囲まれた本殿は、旧本殿が昭和 9 年の室戸台風で倒壊し昭和 12 年に建築史の大家天沼俊一博士の指導により江戸初期の古式として再建され現在に至る。本殿背後の楠は、樹齢 800 年を超える巨木であったが、台風により倒木、その大きな幹から新たな幹が成長し、楠ノ木白竜大神として祀られている。

大正末期より絵画・技芸の上達を願う「画神祭」が毎年 5 月 3 日に行なわれ、式後社務所で席上揮毫会を開催されていた。しかしながら近年では参加する日本画家がいなかったため祭事が行なわれていないことは残念なことである。

（桑原宏明）